

4. 自営業の子ども（世帯主）と同居する方

（子40歳：営業所得390万円、本人78歳：公的年金収入79万円）の場合

（1）被保険者均等割額

被保険者均等割額の軽減になるかどうかを判定します。（世帯主と被保険者の合計所得）

$$\begin{aligned} \text{軽減判定所得} &= \boxed{\begin{array}{c} \text{子ども（世帯主）の営業所得} \\ 390\text{万円} \end{array}} + \boxed{\begin{array}{c} \text{被保険者本人} \\ \underline{0\text{円}} \end{array}} = 390\text{万円} \dots \text{ア} \\ & \qquad \qquad \qquad \text{年金収入} \quad \text{公的年金控除※1} \\ \text{軽減判定所得} &= 79\text{万円} - 120\text{万円} = \underline{0\text{円}} \end{aligned}$$

※1 年金収入が330万円未満の場合は、120万円の公的年金控除があります。

$\begin{aligned} \text{軽減判定所得 } 390\text{万円 (ア)} &> 8.5\text{割軽減判定基準額 } 33\text{万円} \\ &> 5\text{割軽減判定基準額 } 60\text{万5千円} \\ & \qquad \qquad \qquad (33\text{万円} + 27\text{万5千円} \times 1\text{人}) \\ &> 2\text{割軽減判定基準額 } 83\text{万円} \\ & \qquad \qquad \qquad (33\text{万円} + 50\text{万円} \times 1\text{人}) \end{aligned}$
--

被保険者の公的年金額が少なくても、子ども（世帯主）に軽減判定基準額を超える所得があるため、被保険者均等割額の軽減はありません。

○被保険者均等割額 = 45,800円・・・A

（2）所得割額

$$\begin{aligned} \text{賦課のもととなる所得金額} &= \text{公的年金控除※1} \\ &= 79\text{万円} - 120\text{万円} = 0\text{円} \end{aligned}$$

※1 年金収入が330万円未満の場合は、120万円の公的年金控除があります。

○所得割額 = 0円（賦課のもととなる所得金額）× 8.67% = 0円・・・B

（3）保険料額

$\begin{aligned} \text{○保険料額} &= 45,800\text{円 (A)} + 0\text{円 (B)} = 45,800\text{円} \\ & \qquad \qquad \qquad \text{(月額 約3,817円)} \end{aligned}$
